

急性期充実体制加算 1 の施設基準要件について

2 外来化学療法の実施を推進する体制

- ・がん化学療法に精通した医師・薬剤師・看護師などの多職種連携
- ・レジメンの管理、指示の統一
- ・マニュアルやガイドラインの作成と定期的な見直し
- ・エラーを防止するシステム
- ・緊急時に迅速に対応できる体制
- ・外来における患者教育
- ・他部門との連携
- ・外来化学療法運営を検討する場

職種別のチーム医療の役割

医師	薬剤師	看護師
1. 新しい治療・プロトコールがスタートする場合は、必ず事前に説明・勉強会を実施 2. 情報の共有化の徹底 3. 確実な指示 4. 当番医との連携 5. 看護師とのコミュニケーションスキル 6. チーム医療の実施 7. 急性期副作用に対応	1. 迅速な抗がん薬調整の強化 2. 薬剤調整の連絡（投与時間制限があるレジメンの取り決めなど） 3. 医師からの指示の実施、レジメンの確認 4. 患者への薬剤指導 5. 医師・看護師との定例ミーティングの開催	1. 適切な知識のもと安全・確実な投与管理 2. 副作用症状のマネジメント a. 副作用症状の予防と緩和 b. 患者・家族へのセルフケア支援 3. 副作用症状以外の症状マネジメント 4. 医師決定支援 5. 不安を軽減する情報収集 6. 信頼関係の構築 7. 安全や緊急時のためのシステム作り 8. チーム医療の推進 9. セルフケア支援

急性期充実体制加算 1 の施設基準要件について

3 24 時間の救急医療提供

ア 救急搬送件数…5,315 件/年 (2,000 件/年以上)

イ 精神科医が速やかに診療に対応できる体制…千鳥ヶ丘病院と連携

精神疾患診療体制加算 2 の算定件数又は救急搬送患者の入院 3 日以内における入院精神療法若しくは救命救急入院料の「注 2」に規定する精神疾患診断治療初回加算の算定件数の合計…45 件/年 (20 件/年以上)

9 入院患者の病状の急変の兆候を捉えて対応する体制

ア 院内迅速対応チームの構成員

・医師：福田 信也 ・専任の看護師：十時 良子

イ 病状の急変の可能性がある入院患者及び病状が急変した入院患者の対応状況に関する改善の必要性等について提言するための責任者名：田中屋 宏爾

ウ 病状の急変の可能性がある入院患者及び病状が急変した入院患者に対する対応方法に係るマニュアルを整備し、職員に遵守させている。

エ 病状の急変の可能性がある入院患者及び病状が急変した入院患者の対応の改善に関する委員会

又は会議の開催日：令和 6 年 1 月 19 日 うち、イの責任者の出席日：令和 6 年 1 月 19 日

オ 院内講習の開催日：1 回目 12 月 26 日 2 回目 3 月 18 日

10 外来縮小体制

ア ・初診に係る選定療養の報告を行って実費を徴収している。

・紹介割合の実績が 50%以上かつ逆紹介割合の実績が 30%以上

イ ①初診の患者数：9,220 名、②再診の患者数：115,223 名、③紹介患者数 7,424 名、④逆紹介患者数 12,316 名、⑤救急患者数 3,033 名、⑥紹介割合 113.4%、⑦逆紹介割合 99.0%

13 退院に係る状況等

・一般病棟における平均在院日数が 14 日以内であること。…12.4 日

・一般病棟の退棟患者（退院患者を含む）に占める、同一の保険医療機関の一般病棟以外の病棟に転棟したものの割合が 1 割未満であること。…0 割

・入退院支援加算 1 の届出を行っている。

14 禁煙の取扱い

・敷地内禁煙

手術件数 (2023年4月～2024年3月)

ア (イ) 全身麻酔による手術 (2,000 件/年以上)	2,800 件
うち、緊急手術 (350 件/年以上)	1,610 件
(ロ) 悪性腫瘍手術 (400 件/年以上)	680 件
(ハ) 腹腔鏡下手術又は胸腔鏡下手術 (400 件/年以上)	852 件
(ニ) 心臓カテーテル法による手術 (200 件/年以上)	524 件
(ヘ) 化学療法 (1,000 件/年以上)	6,202 件
(ト) 心臓胸部大血管の手術 (100 件/年以上)	111 件

○当院で実施可能なレジメンについては、当院ホームページ（診療ご案内－部門－薬剤部）および患者図書室に冊子にて閲覧可能です。

※ 全身麻酔とは、医科点数表第2章第11部に掲げる麻酔のうち区分番号「L007」開放点滴全身麻酔又は区分番号「L008」マスク又は気管内挿管による閉鎖循環式全身麻酔をいう。また、手術とは、医科点数表第2章第10部に掲げる手術（輸血管理料を除く。）をいう。

※ 緊急手術とは病状の急変により緊急に行われた手術をいう。

※ 腹腔鏡下手術とは、医科点数表第2章第10部に掲げる手術のうち、区分番号「K524-3」、「K526」の「3」、「K530-2」、「K532-3」、「K534-3」、「K537-2」、「K627-2」、「K627-3」、「K627-4」、「K633-2」、「K634」、「K636-3」、「K636-4」、「K639-3」、「K642-2」、「K642-3」、「K643-2」、「K647-2」、「K649-2」、「K654-3」、「K655-2」、「K655-5」、「K656-2」、「K657-2」、「K659-2」、「K660-2」、「K662-2」、「K664」、「K665」の「1」（腹腔鏡によるものに限る。）、「K666-2」、「K667-2」、「K671-2」、「K672-2」、「K674-2」、「K684-2」、「K692-2」、「K695-2」、「K697-2」の「1」、「K697-3」の「1」のイ、「K697-3」の「2」のイ、「K700-3」、「K702-2」、「K703-2」、「K711-2」、「K714-2」、「K715-2」、「K716-2」、「K718-2」、「K719-2」、「K719-3」、「K725-2」、「K726-2」、「K729-3」、「K734-2」、「K735-3」、「K740-2」、「K742-2」、「K751-3」、「K754-2」、「K754-3」、「K755-2」、「K756-2」、「K769-2」、「K769-3」、「K770-2」、「K770-3」、「K772-2」、「K772-3」、「K773-2」、「K773-3」、「K773-5」、「K778-2」、「K779-3」、「K785-2」、「K802-4」から「K802-6」まで、「K803-2」、「K803-3」、「K804-2」、「K809-3」、「K823-4」、「K834-2」、「K836-2」、「K843-2」、「K843-3」、「K843-4」、「K859-2」、「K863」、「K865-2」、「K872-2」、「K876-2」、「K877-2」、「K878-2」、「K879-2」、「K886」の「2」、「K887」の「2」、「K887-2」の「2」、「K887-3」の「2」、「K887-4」、「K888」の「2」、「K888-2」の「2」、「K890-3」、「K912」の「2」又は「K913-2」の「2」をいう。

※ 胸腔鏡下手術とは、医科点数表第2章第10部に掲げる手術のうち、区分番号「K488-3」、「K488-4」、「K494-2」、「K496-2」、「K496-4」、「K501-3」、「K502-3」、「K502-5」、「K504-2」、「K513」、「K513-2」から「K513-4」まで、「K514-2」、「K524-2」、「K528-3」、「K529-2」、「K539-3」、「K554-2」、「K555-3」、「K562-2」、「K594」の「4」の「ロ」をいう。

※ 心臓カテーテル法による手術とは、医科点数表第2章第10部に掲げる手術のうち、区分番号「K546」から「K550-2」まで、「K555-2」、「K556-2」、「K559-2」、「K559-3」、「K562」の「1」、「K567-2」、「K570-2」から「K570-4」まで、「K573」の「1」、「K574-2」、「K574-3」、「K594」の「4」の「ハ」、「K595」、「K595-2」、「K602-2」をいう。

※ 化学療法とは、悪性腫瘍に対する抗腫瘍薬、ホルモン療法、免疫療法等の抗腫瘍効果を有する薬剤（手術中の使用又は退院時に処方されたものは含まない。）を使用するものと、抗生剤のみの使用、G-CSF製剤、鎮吐剤等の副作用に係る薬剤のみの使用及び内服薬のみの使用等は含まない。

令和6年6月1日
岩国医療センター